

南太平洋研究會譯



印  
經  
濟  
史

實業之日本社

で、東印度から寄與されたものは一億八千七百萬フロリンであつた。この帳尻剩餘金 (Bank slot) の政策は、東印度は服従 (overheerscht) せしめらるべきでなく、沉んや搾取せらる (geexploiteerd) べきでなく、支配せらる (bestuurt) べきであるといふ原則と直接に衝突した。我々オランダ人の行動は防護し得べからざるものであつた。そして、一八六七年以來東印度から得た金はすべて返却さるべきものであつた。返金は法律上の手續きによつて強制することは出来ないが、然しそれは、一層高い正直と名譽の法律のもとにおいては當然支拂はるべきものである。それは「證文のない負債」である。——とフアン・デーフエンテルは論じた。

オランダ本國と植民地の財政の分離は長く議院に於いて議論された。そして東印度の剩餘金が缺損に轉ずるに至つた後財政の分離は物質的に有利となつた。然し、フアン・デーフエンテルは、その問題を一般民衆に徹底せしめ、そしてそれを道德的基礎の上に置いた。彼の論文は雲霧を拂ふ落雷であつた。そこで一層新鮮な空氣の中で、植民地問題は新しい様相をとることになつた。次の二十年間、フアン・デーフエンテルは、東印度問題に於いて堂々たる大立物であつた。

ブロースホフト (Brooshoff) は、フアン・デーフエンテルや、フアン・コル程著しく頭角を現はさなかつた。彼の仕事の大部分は、ジャワに於いて記者をしてゐた時になしたものであつた。然し、一九〇一年に彼は、「植民地政策に於ける倫理的傾向」と題する小冊子を以て廣く知られるやうになつた。彼は言つた、「百年以上の間、倫理的太陽 (ethische zonnetje) の光線は、利己心の雲と闘つて跪きつづけてきた、そして遂に植民地政策を明るく照らすに至つた。」と。この光は長い間行き渡らなかつた。従來政廳はジャワ人の慘めな收入からその二十五パーセントを收めてをり、西洋に於いて數百萬の人が陥つて跪いてゐる恐怖の深淵にジャワ人を陥れる外に

は、何の返報もしなかつた。自由主義は人民に自由を許してゐると誇つた。然し人民を放置してある眞の理由は、その怠慢のためであり、また、それに金を費したくなかつたためである。自由の名に於いて農園栽培者は最も良い土地を奪ひ取つた。そして、名目ばかりは人民の保護の爲めとして採用された方策が、苟くも役に立つたとして、農園栽培者の保護の爲めに役立つたのである。前借金によつて貧窮に陥らしめられた土民は工場に追ひこまれた。そのために、個人の道德は頹廢し、社會生活は紊亂した。資本は、至る所でその勢力を示した。即ち、農園栽培者のための土地の獲得に於いて、勞働法や鑛業法に於いて、ヨーロッパ人官吏には一層高く俸給を支拂ひ、土民官吏には一層少く支拂ふ文官制度の改革に於いて、法廷や警察に於いて、しかも一方において土民の爲めには何もなされてゐなかつた。然し倫理的原理は、道德的、物質的幸福への建設的努力、村政の嚴密なる統御や地方分權を要求した。以上は地方分權と能率と福祉などの話題となつた標語を主張した點に意義のある、むしろ主張が一貫してゐない小冊子の要點である。然しこの小冊子は主として植民地政策の新しい「倫理的」傾向に對して名を與へたことにおいて注目すべきものである。

### 三、福祉の減少

一般公衆は、若しも事情が同時にその懷に關係しなかつたなら、これらの改革家の訴へに良心を感じる程敏感でなかつたかも知れない。一八九六年に根の病氣は砂糖を襲つた。またリベリア・コーヒーは、アラビカ・コーヒー (Arabica) が陥つた病氣に脅かされた。物價は下落しつゝあつた。錫は一八九六——九七年に一ピコル (Pikol) 三九フロリンに下つた。コーヒーは一九〇一年に三二フロリンに下り、砂糖は一九〇二年に十五番

品四・五〇フロリンに於いて底値をついた。輸出は殆んど不振であり、輸入は衰へつつあつた。長たらしきアチン戦争 (Achin war) は痛のやうに國を疲れ果てさせた。費用は騰貴し、収入は下落した。そして新しい収入をあげやうとする企ては不生産的であつた。見込は非常に悪かつたので東印度に於ける生活を求めたヨーロッパ人は少なかつた。そしてヨーロッパ生れの人口は、一八九五年の一四、三二六六から一九〇五年の一三、六七六六に減つた。代議士達は、状態が不安なのか、愕ろくべきであるのか、危険であるのか、危機であるのか激論した。然し、みなが患者は病氣であることに同意した。それから一九〇〇—一九〇一年に於いて、一般的の不作と家畜の疾病の報知は一般經濟瓦解の不安をひきおこした。

この急場に於て、道徳的責任論の綱領を有する教權黨 (the Clerical Party) が政權を握つた。そして一九〇一年の議會に於いて、オランダ女皇は「ジャワ人民の福祉の減少を調査する」政府の意向を公表した。一九〇二年に、前年議會に入つた東印度の技師長の一人であつたイーデンブルフ (Itenburg) が植民大臣に任命されたので、新しい人物が舞臺に登場することになつた。すべての政黨の賛成、殊にフアン・コル (Van Kol) の賛成を博した一大豫算演説に於いて、彼は東印度の窮迫の主要なる原因を診斷して人口の増加にありとなし、その結果農業への報酬の減少を來したのであるから、その救済策として土民資本による土着産業の創造を提議した。また「證文のない負債」について論ずることなくして彼は、人民を一層高い福祉の水準に揚げることによつて次の瓦解から東印度を保護する手段を本國の財政は用意すべきであることを是認した。この目的の爲めに彼は、三人の専門家、即ちフアン・デーフェンテル (Van Deventer)、キールストラ (Kleistra)、フォック (Fock) を任命して、それ／＼經濟的狀態、植民地財政の狀態及び救済のために採用すべき方策を報告せしめることとした。

フアン・デーフェンテルは人民の最初の統計調査を試みた。そして、産業に關するの R. P. ルファール (R. P. Rouffaer) の附録と共に、所得、課税、勸告の三項目に分けて念入りな報告書を提出した。彼は、人口が食物や家畜の資源よりもはるかに迅速に増加したといふ結論に達した。そして家族収入を八十フロリンと見積つた。その中で、僅かに三十九フロリンが現金収入であつて、残餘は生産物収入であつた。然るに、家族に對する課税は十六フロリンであり、その中、九フロリンは現金で、殘高は生産物か勞働であつた。

キールストラは退職陸軍士官であつた。一八一六年以降の東印度とオランダとの間の財政關係に關する、彼の非常に役に立つ興味深い調査は、東印度の全貢納額が八億三千二百萬フロリンに達することを示した。そしてその中、一八六七年以後の貢納が證文のない借金と認められるならば、一億六千萬フロリンが償還せられねばならないとした。經常費に於いてのみで既に、一八七二年から一九〇二年の間に一億五千一百萬フロリンを超える缺損額は、コーヒーの價格の下落と共に急速に増加する虞れがあつた。臨時費は同期間に於いて、二億七千二百萬フロリンの一層多額の缺損であつた。その多くはたとへ代償を齎すものとして分類されるものでも、事實に於いて収入に貢献しなかつた。また、収入の財源は殆んど改善の徴候を示さなかつた。それにもかゝらず、金は東印度の財政状態を改善する費用として差迫つて必要とされた。従つて、東印度の會つて瀆らした利益を認識すれば、必要な資金を供給することは母國の義務であつた。「本國からの援助がなく、單に自身の有する資源のみからでは東印度は何事も出来なかつた」のである。

フォックはジャワに於いて辯護士を業とした自由主義者であつた。彼は、支那人の「有害な影響」を細かく論じた。そして、一層良き教育が行政に於ける土民の分子を次第に強化し、「それ自身の基礎に基づく東洋的政治の

健全なる發達」を促進するであらうと述べた。彼はまた灌漑や鐵道の建設や個人領有地 (particuliere landerijen) の買戻しのやうな有利な計劃のための資本の必要を指摘した。然し特に、土民の福祉を増進することによつて間接に有利である資本支出の計劃を論じた。この項目の下に於いて彼は、保護的灌漑、農業的信用機關、灌漑の増進と、國營企業によりまたはオランダ人や土民の個人企業を財政的及び運輸の特許と市場の保證によつて援助することに於けるヨーロッパ人及び土民の産業の奨励とに分類した。

これら三つの報告はすべて或る共通の特徴を持つてゐる。經濟的動機が福祉への充分なる刺戟であるとする自由主義の傳統を受容してはゐるが、またそれらは國家干渉の望まじきこととその必要とを認めてゐる。それらばすべて、東印度の従前の貢獻を認めて、オランダが東印度の状態を改良する方向に向つて代償無しで或る貢獻をなすべきであることを認めてゐる。そしてそれらは、人間的幸福よりもむしろ物質的幸福の發展を強調し、また眞の問題はジャワ人が獨力でなしうるものを發見することに存することに注意しないで、ジャワ人と共になすことが出来るものよりむしろジャワ人の爲めになすことが出来るものを考へる傾向がある。それらの立場は個人主義的であつた。そして問題を、社會的によりもむしろ機械的に考へたのである。

イーデンブルフ (Edenburgh) は職に就いて以來二つの問題に直面してゐた。その一つは、オランダ本國と東印度との財政を分離すべきかどうかといふ理論的問題であり、他の一つは、直接の緊急の場合に應じて何をなさねばならないかといふ、實際的問題であつた。理論的問題は大して困難を示さなかつた。一八六四年の會計法 (the Accounts Law) は、「寄與」の項目の下に豫算への記入を規定した。然し東印度は一八七七年以來少しも寄與をしなかつた。そして連續的な東印度の缺損額は、不體裁な請求を本國大藏省に出させた。従つて一九〇三年、

イーデンブルフが議會を誘導して會計法の修正を行つた時、彼は論争以外に何の益もないこの項目を廢止すればそれでよかつた。然し同時に、彼は東印度に對し援助を與へんとする提議を明確に述べた時、その提議が常に痛切に論争されたのでさらに熟慮するために彼はそれを後廻しにせねばならなかつた。そのために彼は、道德的必要は感じてゐるが金を持たないといふファン・コル (Van Kol) の嘲弄を蒙つた。<sup>15)</sup> 一九〇四年に彼の三人の専門家からの報告を受取つて後、それ以上の猶豫は不可能になつた。そこで彼は新しい案を提出した。彼は東印度が必要な時にオランダを援助した以上、オランダは難澁してゐる東印度への援助の道德的責任があることを認めた。斯くして彼は證文なしの借金を認めなかつた。そして、良心の一層無理でない要求に應ずること満了した。かうした方針に沿ふてイーデンブルフは、政府がその當時約四千萬フロリンに達する東印度の一時的債務を本國の收入に對する責任として引受くべきであるといふ提議に賛成をうる爲めに議院を説得した。そして東印度政廳をして、それ以上借金せずその金額まで、利益を生ぜぬ計劃例へばフォツク (Fock) が推薦したやうな、特に移住や農業金融や灌漑に金を使ふことを得しめた。同時に彼は、福祉の減退に關する調査委員を準備しつゝあつた。然し、四千萬フロリンのこの自由な補助金と共に、倫理的政策は既に實行に移された。そして宛かも徳に對する報賞であるかの如くに、熱帯地方の生産物の價格が直ちに騰貴した。従つてその翌年、イーデンブルフは「貨幣の金の雨の下で」職を離れた。次の自由主義の大匠として彼の後繼者は彼にその豊富な思想を供給したフォツクであり、今や一九〇七年の大建設豫算においてそれらを実施することになつた。

#### 四、擴 張

であつたであらう。

この制度に對して異議が唱へられたのは政治的根據に基くものであつた。即ちこの制度はヨーロッパ人の繩張に役立つものであり、又ヨーロッパ人官吏の監督を必要とするものである。又この制度は協同する苦勞もなく國民に信用を供給して、國民の協同を邪魔した、といふやうな根據、これである。今後暫らくは機構がヨーロッパ人に管理せられねばならぬことは事實である。しかし、既に銀行事務の各部門にそれに通曉した土民従業員が幾千となく生れて來てゐる。かつて支那人の獨占であつた質屋業や金貸業にも、洞察力ある土民が生れて來てゐる。またいづれは、もつと責任ある位置に土民を補充することも可能になるのであらう。批判にはさらに大きな趣旨がある。即ちこの制度は協同信用の生成を妨げたといふのである。しかし、それが結局長い間には利益にならぬとは言ひ得ない。英領印度では信用を提供するといふ經濟問題と協同を奨励するといふ社會問題とは聯關して取り扱はれる。しかし、或る場合には貸借の要求に應じるため、協同主義は害せられた。蘭領東印度では、經濟問題は獨立に着手せられ、現在に於いては國營機關が信用の需要に應じ、協同の増進を託された官吏は、健全な主義として協同制度を建てんとしてゐる。國營金融制度の成功はインドネシア國立銀行、國立農耕銀行の形成の一つの誘因であつた。又近年設立された多數の「幼稚な」協同組合は、協同信用の國家による過去の否定が政府の援助による運動よりも活氣ある協同運動を人々の間に發生せしめたことを示してゐる。

#### 四、公衆の保健

政治が「道德」の方向を取る時は、公衆の健康の増進は、福祉計劃の間でも、顯著なものであつた。一九〇〇年までに、既に種々の努力が拂はれて來たが、それは教育の場合と同様に、主としてヨーロッパ人の爲めであつた。しかし古來からの衛生學は否定はされなかつた。オランダ人は清潔への熱心を東洋へ齎らした。又一八二九年のスラバヤの地方規則の中の衛生規定は全國に普遍し、集會(vergaderingen)と監督官とを通じて、土民官吏によつて勵行せしめられた。土民官吏は代々の支配の權威に於いて強く、不當であると思はれる行爲や怠慢に對しては一寸した罰によつて、遵守を命じ得るのである。かくて、この村の綺麗なことと清潔なことは、一八六〇年マナー(Money)を感動せしめ、今もヨーロッパ人にせよ、アジア人にせよ、東洋の地を経てこの地にやつて來る者は必ず深く感動してしまふ。官吏は種痘を奨励し、一オランダ人はラツフルス(Raag)の作つた種痘所を擴張した。一八五一年には土民醫者はこゝで専ら種痘に従事した。民間事業の伸展と共に、最低標準の健康を國民に課する強力な機構は、全國に擴がつた農園栽培者のヨーロッパ醫學に留意し、農園に働く苦力の保護を求める要求により強化された。一九〇〇年ジャワには、二十八人のヨーロッパ人民間醫がゐたが、彼等は半ば政府に備はれてゐた。外領(Outer Province)には二十八人のゐたが、その中の十四人はスマトラ東海岸の主要な農園地帯に住んでゐた。公醫と軍醫もゐた。醫者の數は現世紀になつて急速に増加した。

しかし十九世紀の頃は、オランダ人は土民に最低標準の衛生を強制するのに刑罰を以てしなければならなかつた。道義運動が起るに及んで始めて積極的政策が「懷柔政策」により實行されるに至つた。衛生は極めて教育と關係が深いことは初めて明かに認められて來た。そして公衆保健機關(The Public Health Service)が教育部の一部門を形成することはオランダ行政の顯著な特徴である。同情に富む企劃の明かな現はれである。しかし一九一一年に疫病が發生するに及んで、初めて多額の資金が衛生施設の爲めに投下された。それ以來欄外に示されて

醫 者

年	ジャワ		外 領	
	ヨーロッパ人	土 民	ヨーロッパ人	土 民
1900	103	90	73	42
1910	145	88	72	60
1920	301	147	153	86
1930	667		363	

ゐるやうに衛生施設の爲めの支出が急速に増加した。支出の重要な項目は病院及び薬局の設立、種痘、家屋の改善、特に近年の宣傳とである。斯くて活潑な活動の結果、疫病の傳染を防ぎ得る瓦屋根の家が多くなつた。或る村では赤瓦の屋根を持たぬ家は無く、スندگانの地方は殆んど何處でも、その割合が八十パーセントの高きに昇つた。このことは英領印度から訪れた人々に、他の諸状況では全然説明のつかない廣範な繁榮の印象を與へてゐる。衛生への關心は必ずしも命令されるから起るものではない。國民が醫務官の意圖よりも文官の意志を理解することが往々存した。そこで首長が得々として理事官を「御使用自由」と書いてある新式便所に案内する村、或ひは清潔を保つため無暗に便所を使用しないやうに務める村などの様

公衆衛生の  
ための支出  
(單位百萬フロー  
リン)

年 度	金 額
1900	2.2
1910	3.4
1915	11.1
1920	15.3
1930	20.7

ある階級の者さへも政治的宣傳に注意を奪はれてゐると、衛生増進のため何も爲し得ない。それにも拘らず村々の家屋とその構内の清潔は著しく目に止まる。オランダ人は土民を自分達と同水準に迄引上げる事は無理であつ

たが、兎も角その衛生状態を高めるに成功した。教育ある土民が衛生に留意しないなどといふことはあつてはならない。衛生に關しても他の場合と同様に、土民理事官は單なる官吏ではなく、世襲的地方貴族であつて、その土民の衛生的福祉に關する關心は、單に職務的なものではなくて、英國地主の領有地の村民に對する關心と同様なものである事を忘れてはならぬ。なほ政治運動家であつたチプト博士(C. J. P. T. de Witt)も疫病部従業員として働くために職業を擲つた時、初めて名を擧げるに至つたのである。また近年民族主義者の起した種々の研究會に於いても、種々の項目と共に衛生的福祉が研究されてゐる。

五、教 育

十九世紀の終り頃にはヨーロッパ人は自分達の子供を印度に於いてもヨーロッパに於けると殆んど同様に教育することが出来た。しかし土民の爲めには何も計劃されなかつたし、又成し遂げられもしなかつた。一九〇〇年にはジャワは三千萬の人口を有してゐたが、その中七萬五千人が通學してゐた。しかし、それも殆んど第二級の學校であり、或ひは私立學校であつた。課目は讀み方、書き方、算術だけであつた。小數の五年制の第一級の學校に於いても、オランダ語は必修課目ではなかつた。ほんの少數の上級者のみがヨーロッパ人の學校に通ふことを許されてゐた。しかしそれも面倒な束縛があつた。外領はジャワに較べて人口は非常に少なかつたが、宣教師の非常な活動があつたので、學校兒童の數は殆んどジャワと同數であつたが、第一級學校の數は皆無であつた。外來東洋人、主として支那人は自身の學校を持つて居り、その生徒數はジャワに凡そ五千人、外領に於いて凡そ三千人であつた。斯の如く教育組織は住民の各部分が別々の學校を持つ複合社會の特徴を表してゐた。

る。最初オランダ人官吏は社會開拓者として西洋の方法と民主主義的機能によつて、東洋に於いて新世界を建設せんと希望した。しかし乍ら奇木細工では何としてもユートピアを作り出すことは出来ないのである。そこで彼等は村民の天與の指導者たる土民理事官の協同作用に着眼した。この運動は、今まで妨害となつた若干の民主主義的機能を離脱し、民主的といふよりは寧ろ貴族的に、或ひはたとひ民主的であるとしても一層東洋的に加味された民主的のものとなるであらう。そして貸すに時日を以てすれば土民理事官とその弟としてではなく、兄としてのヨーロッパ人とが協調團結し、かつての經濟的發展に於いて果したと同様な効果を社會的發展にも貢獻するであらう。

## 八、福祉調査

道義政策の最初の目的は東印度の住民の福祉の水準を向上せしめることであつた。一九〇〇年には土地の所有關係及び奉仕義務の強制等に關する調査により社會的並びに政治的狀態に少からざる光明をもたらした。しかし彼等が不満足であると信ぜられてゐること以外には、經濟的狀態については何ら知られてゐなかつた。經濟調査の最初の試みはイデンブルグ (Idenburg) の依頼によりリマン・デーンヘンテル (Van Deventer) によつて企てられた。しかし一九〇四年に提出された彼の報告書 (Verzichte) は、「時代遅れでない範圍内で常に見習書記官が造り上げた」<sup>23)</sup> ところの統計 (statistiek) の中にある數字を主として基礎を置いてゐる。この報告が印刷された時には既に經濟狀態の最初の公けの調査が始まつてゐた。一九〇一年のオランダ女皇の詔勅によつて約束された「ジャワに於ける福祉低下の原因」に關する調査の爲めの委員會は、人民に對する同情を以て聞えた古參理事官

委員長たるステインメツツ (H. E. Steinhilber) の下に一九〇二年に組織されたのである。この委員會は土民生活の完全な調査を目的としたものであつて、食物・土地所有關係、耕作方法・灌漑・負債等や漁業・工業・商業等の現状及びヨーロッパ人の企業並びに外來東洋人等の土民の生活と福祉とに及ぼした影響等々の調査を主眼としたものであつた。一九〇四年七百の複雑せる問題を盛つた五十六枚に亘る老大な質問書が、官民各方面へ彼等の餘暇のあるときに回答するやうに、國全體へ配布された。しばしば英領印度に於いて同様の調査が行はれた場合に起つた如く、諮問された人々は、以前から特別に注意をしたことのない問題について早急な意見を提出したに過ぎなかつた。この調査は一ヶ年以内に完成したが、取纏めの過程は殆んど十年近く繼續され、その報告は大阪十四枚に一九〇五年から一九一四年の間少しづつ出版され、多數の附録を合せ全部で三十三卷となつたのである。この委員會は一九〇四年に解散したが、アルファベット索引と摘要との二卷がその解散後一九二〇年に出版された。

最後の結果が刊行されるには、村の賦役に關する研究の行續によつて名譽を残したさきのハツセルマン (C. J. Hasselman) の報告も長い時日を要することが一九〇五年になつて明瞭になつたので、暫定的な要約を編纂する様に特別の義務が與へられたが、その要約すら一九一四年に至つて始めて世に出たのであつた。その報告に於いてハツセルマンは、ジャワの諸條件の多様なこと及び調査方法の缺陷を強調してゐる。經濟的な觀點から見たジャワは、種々雑多な標本の見本帳の如くであり、その生立ちも性格も各々非常に違つた多數のヨーロッパ人は必然的に種々雑多な印象の標本の様に思はれ、時には相矛盾してゐることもあると彼は述べてゐる。かゝる「思索のシチュー鍋」(brouwkeel van opvattingen) から彼は共通の要素を搾り取らうとした。但しそれができない場

合には、それらを調停せずしてまぢまぢの見解のまゝに紹介した。かくして彼は主として、このことについてはこれだけの人がかう言ひ、他のことについてはこれだけの人が反対したといふ風に頭数を數へることによつてその成果を達成した。彼の要約には特色と自信はないが、しかし可なり有益な教示がある。そして到るところで彼は屢々貴重な材料に關する詳細な引照を與へて居り、彼はその材料を讀むだけに八年間もかゝつたが、他人はそれよりも遙かに短い時間で自由に参照する機會を與へられたのである。

彼が描いた映像はすべて鼓舞助長であつた。且つ少くとも一九〇五年以後福社は増大こそしたが、減少しなかつたことを彼は知つた。しかしながら「思索のシチエー鍋」から誰れでも彼の嗜好になつた一片をつまみ出すことが出来るのである。そしてファン・ユル(Van der)は「孤立せる植民地」とか「瘦せ衰へた地方」等に就いて常に言及してゐる。ヨーロッパ大戦後の粗の突然の騰貴及び政廳の支出の急激なる膨脹とそれに伴ふ租税の増徴等による福社の減少に對する抗議が復活し繰返され、文官、フウエンデル博士(Dr. Heender)はファン・デーフエンテルの調査を更新せんと試みた。彼の調査は、しかしながら、非公式のものであつて、政廳に對する批判によつて福社遞減委員會(Diminishing Welfare Committee)が行つたと同様な研究の必要を強調してゐるのである。人民が戦後の不景氣を経験し始めた丁度その頃、戦後の増税が實施せられた。諸方の役所では租税の強制が困難となつた、またオランダの社會主義者アルバールダ(Albarda)は、「生活水準は低下しつゝある。幾百萬の者は悲惨な状態にある。彼等が食に餓えてゐることも一再でなす」と云ふ國民參議會(Volkstraad)の論争に支持を與へた。ファン・コルはヨーロッパに於いて彼を支持した。そして遂に政廳は一九二四年に蓋々乍ら次の二つの點で福社遞減委員會(Diminishing Welfare Committee)とは異つた調査會を設立することに同意した。

即ち今回の調査はジャワのみならず全東印度に亘るものであり、また地方の實地調査よりも統計に基礎を置いたものであつた。<sup>24)</sup>一九二六年に出版されたその報告は、一部は人口、農、工、生産、商業及び賃金等の如き「福社の要素」の調査と、他の一部は交通機關及び國家金融の發展、食鹽及び阿片の消費、學問の普及状態、犯罪の趨勢の如き「福社の指標」の調査との二つの部門を包含してゐる。別に租税の強制によつても、調査が行はれた。ジャワに於ける租税の調査はマイエル・ランネット(Meijer Rannet)及びフウエンデル(Heender)兩博士によつて行はれた。その包括的ではあるが簡潔な彼等の報告書は、蘭領東印度に關する政府の文書の中では古典的な地位を獲得してゐるのは當然のことである。外領(Outer Province)に關する同様の調査の成果によつては、一九二八年から一九三〇年に亘つて報告叢書の形で出版された。<sup>25)</sup>

特別委員會のこれらの調査は、しかしながら、缺陷の探知に當つては準備された經濟對策よりも、遙かに適當なものであつた。また一九二七年には常設委員會(Permanent Committee)が、土民の福祉に關係のある材料を蒐集するために任命されたが、この委員會は有名な前任の「福祉小委員會」(Little Welfare Committee)とは一般に異なるものであつた。單に土民のみならず國全體に影響を與へた一九二九年の急激な不景氣によつて、一九三一年に至り經濟問題特別諮問委員會(Special Committee of Advice on Economic Affairs)が任命された。

統計<sup>26)</sup> これらの種々なる調査は從來十分なものと考えられてきた統計の缺陷によつて注目を引く様になつた。他の多くの場合と同様に、この場合に於てもまたグリーンデルスとラツプルスが先鞭をつけてゐるが、彼等の先蹤に従ふ企ては殆んど起らなかつた。一八二五年以來、海運貿易年報(Annual Returns of Shipping and Trade)が出版されてゐるが、この年報は一八四六年まではジャワ及びマツラに就いてのみ關説してゐた。しかしこの年



から年報は外領に對して別に出版された。そしてこれらの年報は一八七四年に合併されたが、一九〇七年に至つて再び兩誌が分離されたのである。

フアン・デン・ボスはジャワの經濟調査を發案したが、何等その結果を得なかつたやうである。しかし乍ら一八三九年政廳は市街地に於ける土地の非公開の調査を引受け、一八四六年には統計調査の準備の爲めに統計局 (Bureau of Statistics) が設立された。一八五一年に行はれたチェリポンの耕地面積に關する試験的調査は、一八六四年の統計調査の組成を最もよく正當づけるものと考へられた。そして同年、總督官房 (General Secretariat) が統計課によつて更に強化された。公表された數字は、しかしながら誤導されたものと考へられ、「統計調査局」と「統計課」はそれぞれ一八七九年と一八八四年に閉鎖された。

自由主義者は一八四〇年出版の報告 (二二〇頁) 及び一八五一年の「植民地年報 (Annual Colonial Report)」に述べられた植民事情に對して説明を求めた。そして一八五一年以後は「若干の例外を除いて植民地報告が、その附録に於いて、統計的性質を持つ唯一の官廳出版物として残つた。しかしこの報告は種々な官廳の活動の結果の單なる副産物に過ぎなかつた」フアン・デーンフェンテルが彼の調査中で頼らねばならなかつた統計數字は、かゝる時代遅れの或る程度虚偽の數字に基いたものであつた。

● 福祉減調査會 (Diminishing Welfare Enquiry) は信頼するに足る統計の必要を指摘してゐる。そして一九二二年に統計部が農林部に附屬され、一九二四年關稅統計 (Customs statistics) を引受け、次第に統計の中央官廳となつた。一九二二年、年報の編纂がオランダから東印度に移管され、統計年鑑 (Statistisch Jaaroverzicht) (東印度報告第二卷) として出版された。統計局 (Statisties Bureau) は引續き教育・犯罪等の統計を受繼ぎ

更に物價指數、生計費及び景氣統計を取扱ふ支部を開いた。斯様にして現在の狀態は一九〇〇年の頃とは非常に異なるのである。統計事業が暫らく集中化された爲め、科學的方法を導入することができ、又さらに廣き分野に亘つて調査が行はれるやうになつた。しかしながら我々が十分承知してゐる様に、今日に於いてさへ未だに、非常な苦心の結果作られた統計表を以てしても、なほ複合社會に於ける社會的發展を測定するには適當でないのである。

## 九、土民の福祉

これらの福祉調査の顯著な成果を簡単に要約することは、困難ではあるが、試みなければならぬ。フアン・デーンフェンテル (Van Deventer) は一九〇〇年の狀態のひどく陰鬱な光景を表現してゐる。既に注意した如く、彼は家計の常態的収入をも現金で評價せんとした。そして八十フロリンの生産物のうち、十六フロリンは現金と勞働の形で國家に收められ、現金収入三十九フロリン中九フロリンは租稅の形で取り去られるのである。即ち彼は自分の先入意見から、人口の増加は食物、家畜等の生活資料を遙かに凌駕するといふ命題を支持してゐる。一九〇五年から一四年に至る急速な經濟的發展の全時代に亘つて、その狀態を観察して來た、ハツセルマン (Haselmann) は、更に遙かに樂觀的であつた。土民は米だけか、又は玉蜀黍或ひはトピヲカを混ぜたものに魚又は肉と藥味を添へて、原則として一日に二回食事するのである。故に魚、肉等の消費が増大して來た。住宅を建てる場合、煉瓦や鍍金せる金屬の如き耐久性ある材料を使用することが次第に發達して來た。農業の負債はさほど重大には見えなかつた。負債の擔保に往々土地が引取られる西ジャワに於いてすら、各七十五エーカーの土地

を有した約四十名の地主がゐるだけであつた。外來東洋人特に支那人の影響は決定的であつて、土地の所有は法律により禁止されてはゐるが、金貨業者として彼等支那人は土民耕作者を自己の支配下に置かんとし、阿片の喫煙と賭博とを奨励した。且つ仲介人として土民を商工業から閉出し、彼等を専ら農業に限定したのである。ヨーロッパ人の社會は善かれ悪しかれ雑多な影響を與へた。七十六の土民理事州の中で六十九までが何等代表されてゐないか、或ひは丁度仕事に着手したばかりであつたので、宣教師らは殆んど土民の生活に接觸することが出来なかつた。だからヨーロッパ人が主として土民と接觸をもつたのは農業經營だけであつた。ヨーロッパ人經營の農園は土民の耕作に適した地域に限られた爲め、水の供給を蠶食し、警察その他の公務の負擔を加重した。そして國外の競争も亦次第に土民が工業に従事するのを妨害し始めた。他方ヨーロッパ人の企業は灌漑の改良を促進し、優秀市場を開拓し、貨幣經濟を導入し、使用人を迎へ入れ、容易な條件で現金を前貸した。しかしながら砂糖工場に於ける手取賃金は一八八〇年の一日三十一—三十五セントから一九〇五年には一日二十一—三十五セントに低下し、栽培に従事する苦力の平均賃金は、二十一—五十セントから二十四セントに、工場に働く苦力の通常賃金は一日二十五セントであつて、その半分は現金で、他の半分は食物で與へられた。しかし近年、賃銀は上昇の傾向を有してゐる。

戦後の不振の状態を調査するに當つて、フウエンデル (Huender) は福祉遞減調査會 (Diminishing Welfare Enquiry) が提出した材料とファン・デーフエンデル (Van Deventer) が最近發表した研究の資料とを使用した。彼は正常収入を生産物と現金で以つて百六十一フロリンとし、その中現金収入を五十五フロリンと算出した。更に彼は二十一・五〇フロリンに等しい額が租税として徴集され、その中十三・五〇フロリンが現金で支拂

はれるものと推定した。農業に依存する土民の割合の減少を考慮に入れれば、最上の灌漑地を除いて可成平均産額は減少したけれども、耕地の發展は満足であつた様に思はれる。家畜の飼養が人口の増大と歩調を揃へるものであるかどうかは疑はしいのであつて、非常に廣い地域に亘つて相對的な減少を示した。彼の一般的な結論は、地主の經濟的地位は、全然ではないにしてもファン・デーフエンデルの調査當時に比して殆んど増進せず可成り不利であるに反し、勞働者の地位は恐らく改善されたであらうといふにあつた。しかし土民は工業、商業、海運業には目ざましい發展を爲さなかつた。従つてインドネシア人の中産階級は發生しなかつた。ヨーロッパ人の企業は賃金を支拂ふことにより土民を援助したが、その賃金たるや最少限度の且つ概して遺憾なほど非常に低廉なものであつた。萬が一外観上増額されても、常にそれは生活費の騰貴によつて埋合はされるよりも更に少し多い位のものであつた。その上ヨーロッパへ利潤が流出する爲め、地方に資本が蓄積されなかつた。租税は土民が耐へるだけ加重され、今世紀の始めより全然ではないとしても少ししか軽減されてゐないが、それでも土民からの租税収入は人口の増加に比例して増加しなかつた。それが爲めに實際的には低下を示してゐるのである。

一九二二年にフウエンデル (Huender) は福祉運動の最初の年たる一九〇四年の状態と比較を試みんとした。また一九二四年の經濟調査は、福祉運動が進行し始めてから若干年後の一九一三年に比較の基礎を置いた。

この調査は極く古い年代のものは、非常に不正確であるが、農業統計に依つて、米作耕地が可成り増加してきたことを示してゐる。従つて生産量が増大し、價格の騰貴につれて生産價額も亦外観上非常に増加した。しかし一九一三年を百とする物價指數で價格を修正すれば、實際には一人當りの生産額は減少を示してきたのである。同様に國內消費食料品の數量は増加したけれども、これは一部分は米の代りに一層榮養價の低い食物を以つて

一人當り食料消費量(1913—24年)  
(單位ピコル)

年	1913	1924
米	1.65	1.56
其の他の作物	2.19	3.90
合計	3.84	5.46

一人當り農産物價格(1913—24年)  
(1913年を100とする指數により修正す)

年	1913	1924
食料用作物	14.98 フローリン	14.09 フローリン
輸出用作物	4.41	3.95
合計	19.39	18.04

代用したからであつた。ピコルで賣られる食鹽が、一九一三年の九千ピコルから一九二四年に年三萬ピコルに増加したことは、魚の消費が増大したことを指示するものである。土民の工業は全然見込が無い様に思はれたが、商業では殆んど或ひは極く僅かばかり進歩した。賃金生活者として雇傭される人数は増加し、賃金は——砂糖で繁忙の季節には男子中の九〇パーセントは一日三十七・五セント以上を稼ぐことが出来る——騰貴したが、その騰貴も生活費の騰貴には追ひ付けなかつた。一般的結論は、土民の大多數の經濟的地位は一九一三年以來多少變化を示したが、教育を受けた階級は少しも裕福にはならなかつたといふことである。

ジャワの土民に對する租税の強制に關する一九二六年の調査報告には、彼等の地位の不利である二つの理由を擧げてゐる。一九二三年にジャワでは、一九一二年の輸入の三分の二より僅か少く輸入してゐるのに反して、輸出は殆んどその倍近くになつてゐるのである。この貿易差額の變調の一つの理由は、大戰の僅か前ジャワに於ける資本投資が有利であつたからであり、他の一つの理由はヨーロッパに於いて組織労働者が大戰中に獲得した地位を確守するに夢中になり、企業家に賃金の値上を強要した爲め、企業家はこの熱帯地の未組織労働者を犠牲にして埋合さうとしたことである。家族収入の分析

ジャワの個人賣買に於ける輸出入差額  
(單位百萬フローリン1913を100とす)

年	價格		差額
	輸入	輸出	
1913	300	317	-17
1923	221	616	-395

きをしなかつたことを暗示してゐるのである。

によつて一ケ年三百フローリン以上を得る者は極く僅かであり、大戰の前後に於ける土民の人口と總收入を比較すれば収入の人口増加にもなひ得なかつたことが明らかである。この調査の一の成果は人頭税の廢止であつた。このことは土民の強制労働の廢止によつて、彼等が現金で相當額だけを支拂ひ得る様自由に賃金を稼ぎ得るであらうといふ理論の下に、それを強制奉仕に代用したのであつた。しかるに彼等がこの税金を支拂ひ得なかつた事實は、強制奉仕の廢止が土民の經濟的地位の改善に目ざましい働

現在利用し得る統計資料によつて補足された斯様な連續せる諸

調査は、今世紀に於ける福祉の發展に關する十分確固たる決定を爲し得ると期待されることであらう。しかし乍ら事の自然の性質上「福祉とは人が意識する欲望を満足せしめる能力」の謂であるから、従つて福祉の概念には統計によつて測定しがたい根本要素を包含してゐるのである。そのみならず多數の統計は、役所の目的に都合の良い様に編輯されたり、福祉の測定殊に複合社會に於ける或る單一要素(譯註—各民族)の福祉の測定には少しも役立つ

農業收入 1926年

階級	人口100人當り	收入(フローリン)
土地所有者		
上流	2.5	1,090.49
中流	19.8	299.83
下流	27.1	147.65
小作人	3.4	118.75
農業労働者	12.4	101.36
全苦力	19.6	120.32

メイエル・ランネフト租税重壓10頁

たないものが殆んど大部分である。出版される多數の統計數字が民族別に分類出来ないと同様に、生活方法も生活水準も亦、東洋と西洋とでは非常に異なるので、西洋に於いて福祉を測定した統計も、東洋に於ける福祉の標準には役立たないのである。

福祉調査に關する限り一九一三年以來土民の經濟的地位は少しも進歩しなかつたことを暗示してゐる。そしてフウエンデル博士(Dr. Huender)によれば、一九二二年には一九〇〇年以來幾らかでも目覺しい改善が爲されて

米及び木綿輸入價格  
1900—05年(單位百萬フローリン)

年	米及び穀	棉製品
1900	17.5	35.7
1905	23.9	44.7
1910	70.8	57.3
1913	55.7	96.2
1925	46.5	99.8

1925年の數字は1913を100とする指數により修正す

來たかどうか疑問に思はれる。然しながら我々が四百七十一頁に掲げられた統計數字を回顧するならば、一九〇〇年より一九一三年の間に、主として何れも土民に消費される米及び棉花の著るしい増大に氣がつくであらう。しかしながら一九一三年以後は人口の増加に拘らず、輸入は不變のまゝであつた。故に土民より消費される食料品の輸入に對する數字は、すべて土民の幸福の爲めに計劃されて來たのにも拘らず、一九三〇年の方が一九一三年よりも悪化してゐる福祉調査の一般的结果を確認する様になつた。經濟的發展の時代と一致する道義運動の初期の時代に於いて土民の状態は改善された。丁度このことが一八七〇年のスエズ運河の開通と時を同じうした自由主義の勝利と共に行はれ、また、一八五〇年の自由主義の黎明並びに一八三〇年の耕作制度の導入と共に何れも土民の地位が改善されたのと同様である。然るに現世紀の初期の場合に於いては土民は自分等が獲得した基礎を向上し得ずして、引續き不景氣と衰退とに襲はれたのであつた。イデ

ンブルグ (Dahbunig) は土民の過剩人口がジャワに於ける貧困の根本原因であると診斷した。しかるに土民は一九〇〇年の二千八百三十萬人から一九三〇年には四千萬に増加した。それ故福祉政策は飢餓に瀕せる新世代の土民に、生活の糧を與へる以上には殆んど何も貢獻しなかつた様である。全體として見たる現代のジャワは、世界に於ける最も人口稠密な農業地域の地位にあつて、土民社會に於いては一平方料當り人口九百人以上である。

これらの調査や人口統計を調べてジャワへ渡つた旅行者は、ファン・コル (Van Kol) その他の人々が言及してゐる所謂「瘦せ衰へた地方」といふのは單なる修辭用語ではなかつたことを見出さうと期待するであらう。そして一度び眼を隣りのソロ (Solo) に向ければ、この地方一帯には支那の死人から引き剃いで來た様な黒ずんだ青色の上衣を着て、悲歎にくれた顔付をした農民がぎつしりと群をなしてゐて、旺盛な増加力のある人口が陰鬱な様相を呈してゐるのである。併しこの國を全體として觀る者は、恐らく快い驚きを感じるであらう。この島のどこにも乞食は殆んど見られないからだ。中部ジャワに於いてすら暗い色彩乍ら——時には褐色も用ひられるが——主として單調な青色の衣服は、少くとも南部英領印度よりはゆつたりとしてゐる。しかるにスンダ人の村では、大抵の者はビルマの様な美服をまといつてゐる。旅行者は幾哩も幾哩も果てしない沃土の地方を通過するのである。然し乍ら彼は一般に、赤い瓦がどの屋根にも使はれてゐる光景を見て恐らく富裕の象徴の様強い印象を受けるであらう。西部ジャワの大部分では、瓦葺の家の割合は、全體の八〇パーセント以上である。また或る地方の如きは殆んどどの家も瓦屋根である。一般に家やその圍内の清楚なことが、この印象を一層強くする。のみならず小さな町の最も貧しい陋屋にさへ西洋式のテーブルや椅子が目につくことがある。勤工場にも亦東洋的生活に必要な綿入夜具や美衣等が一ぱい陳列してあり、質店には種々變化に富んだ質物が保管してある。——東

洋に於いてはかうしたことは貧困ではなくて寧ろ富裕の象徴なのである。また雨季中の保管の爲めに、土民が幾臺もの自轉車を入質する現象が特に注目される。こゝでは下ビルマの小邑の如く、奢侈品を陳列した店は澤山ない。硝子器、陶器、ランプ、時計及び魔法瓶等を賣る店はさ程多くはない。金匠、染物師及び理髮師の店舗は割合に少く、繪畫店及び撞球場は極く少い。即ちジャワの住民は下ビルマの地味豊かな米作農家程に金を浪費しない様に思はれる。外觀だけでは幾分誤解され易いのであつて、乞食の比較的少いのは、主として政府の乞食に對する彈壓に因るのである。また多數の瓦葺きの家屋も同様に、かゝる家屋が一層健康に良いとする役人の信念から出た「懷柔政策」によるのである。それにしても恐らく生活水準は少くともビルマの米作地域でない地方と同じ高さであらう。しかしビルマは比較的人口稀薄で、英領インドのどの地方よりも繁榮してゐると考へられてゐる。そこでベンガルやマドラスよりも人口稠密な、現状の如きジャワが少くとも上部ビルマと同様の一般的生活水準を保つてゐるとするならば、斯うした成果に貢献した限りではこの道義運動が全面的な失敗であるともみならずことは出来ない様に思はれる。

オランダ政府自身は、しかし乍ら、達成された事柄に對して満足してゐないのである。蘭領東印度經濟史に關する悲觀的ではあるが非常に興味ある評論が、前信用組合顧問 (adviser for co-operative credit) にして現ライデン大學熱帯經濟學の教授ブツケ博士 (Dr. Boeke) によつてなされた。彼は次の如く言つてゐる。即ちラツフルス (Raffles) とムンチン (Muntzinghe) は農民に耕作を奨励することにより、ドウ・ボス (Du Bos) は資本家に企業を奨励することにより、ファン・デン・ボス (Van den Bosch) は政府に生産を奨励することにより、住民の状態を改善せんと考へた。自由主義者達は繁榮への鍵として企業の自由性に期待した。そして五十年間の闘

争的運動の後、人頭税のかはりに強制奉仕を代用して土民耕作者から最後の桎梏を断ち切つた。結局道義運動は直接に住民の經濟的地位の増進を目的としたのである。しかし一九二四年及び二六年の經濟調査の兩報告によつてブツケ博士は、かゝる慈悲深き活動にかゝらず、土民耕作者は戦前よりも食に豊かでなく、生産剰餘と交換に少しのものしか手に入れることが出来なかつた。しかるに強制奉仕を解放しても、それに代用された金銭で税金が支拂ひ得なかつた程、彼等の經濟的地位は殆んど改善されなかつたといふ結論に到達した。

道義運動の最初、簡易な健全金融により土民耕作者の向上が期待されたが、前金融機關理事長 (Head Credit Service) としての談話の中で、ブツケ博士は「住民は國營銀行から數百萬金を借りたが、それによつて少しでも状態が良くなつたとは、諸君に向つて實際斷言出来ない」と述べてゐる。更に彼は續けて次の如く言つてゐる。即ち、同様に灌漑、移民、植民等は光彩を失つた彼等の標語であつたし、輸出穀物の増産、衛生施設の改善、租税の軽減等の他の標語は、その時々々の政策によつて浮沈を示した。例へば工業化の要求は經濟危機に従つて點滅した。しかしながら數の増加のみが斯うした妙薬の效能であつたが、國外の資本家とその勢力とが急速に増大する土民の活動の分野を略取してしまつたのである。

一九二〇年イデンブルグは、人口過剩がジャワの貧困を説明するものであり、且つまた福祉が増進せずして人口が増加することは、ジャワ人の福祉の増進を願ふ者の常に共通の不滿であるとする自己の論旨に一般の賛同を求めた。かくして一九二八年に土民教育調査委員會 (Committee of Enquiry into Native Education) は老大なる教育擴充費用にも拘はらず、學校の設備が兒童の數の増加にともなはないこと、そして綿密なる統計の分析によつて彼等は、百六十七等の後に、最後の無學の兒童が遂に學校へ引きづられて行くといふ期待に依つて、若干

の氣休めを懐くに過ぎないといふ意見を述べた。<sup>20)</sup>一九〇六年の村落條令 (Village Regulation) は、協同村落を作り上げる事が福祉の鍵であるといふ理想によつて、再び鼓舞された。しかしアダム博士は、これらの諸結果を研究して「いたましくもさうやかなる村の自治だけが残されてゐる」と結論した。一般的意見を概括すれば、土民はその人口と社會の他の生活部門とに於いて向上し、ヨーロッパ人と支那人とは富に於いて向上した。こゝで今世紀間のヨーロッパ人と支那人との發展を吟味しよう。

### 十、ヨーロッパ人共同體

#### a 生 成

土人は人口が増加し、ヨーロッパ人は富が増加したと言はれるが、この命題は正確でない。といふのは、最近ヨーロッパ人共同體は、土民よりもさらに急速に、その人數を増加し、且つこの人數の増加がその社會的經濟的狀態の構造的變化にもなつてゐるからである。

土民 10,000 人に對する  
ヨーロッパ人割合

年	ジヤワ	外 領
1850	18	?
1905	22	22
1920	38	25
1930	47	27

土民の人口の相對的增加は上の表に掲げられた通りであるが、この表を觀察する者は、一八五二年のジヤワ及び一九二〇年の外領に於いてすら、土民の數が過少評價されてゐたことに留意すべきである。このことを計算に入れても、十九世紀の後半を通じヨーロッパ人の個人に企業を自由を與

へ、行政の複雑化にともなひヨーロッパ人官吏が増加したにも拘はらず、ヨーロッパ人共同體は、土民共同體の發展に殆んど歩調を合せ得なかつた様に考へられる。然しながら一九〇五年以來ヨーロッパ人は急速の歩調で増加したのであつた。

#### b 社 會 組 織

新しきヨーロッパ人共同體は、民族的にも社會構成的にも次の三點に於いて今世紀初めのヨーロッパ人の共同體とは異なるのである。即ち(純)ヨーロッパ人が多くて歐亞混血人の少いこと、外國人が多くオランダ人の少いこと、オランダ人のグループですら新しい性格を有してゐることがこれである。

一九〇〇年から一九〇六年に至るヨーロッパ人の居住許可數は、一年平均二百三十件以下であつたが、一九一二年には平均三百二十九件、一九二四—二七年には八百五件に昇つた。一九〇〇年から向ふ四ヶ年間に派遣された行政官吏の數は、一年平均僅かに五十四人であつたが、十年遅れて一九一〇年から一三年には平均三百九十九人、次の十年間には平均三百七十五人であつた。しかし東印度の外部で生れたヨーロッパ人の割合は、一九〇五年から三十年の間に二七・三パーセントから二九・三パーセントに増加したに過ぎなかつた。しかも男性のみの場合には、この割合は更に低くなるのである。にも拘はらず、交通機關の改良等の他の變化と共に、同じ期間内に十一・四パーセントから二三パーセントへの東印度外部で生れた婦人の急激な増加はこれらグループを全く一新し、またヨーロッパ人の性格をも變更した。

最近十年間の顯著な特徴は、七十八パーセントの外來ヨーロッパ人の増加である。一九三〇年東印度の外部で

外來ヨーロッパ人  
1930年

日本人	7195
ドイツ人	6867
イギリス人	2414

生れたヨーロッパ人の五分の一（二十二・六パーセント）は外來人であつた。そして最近の中心的發展地スマトラ、ボルネオに於いては、歐亞混血人を含んだ全ヨーロッパ人口の五分の一から四分の一は外來人であつた。この關係に於いて一八九八年以來ヨーロッパ人に列し、一九三〇年には他の全外來ヨーロッパ人の首位を占めた日本人の急速な増加が注目されよう。このことは東印度に投資された日本人の資本の小額であることと合はせ考へれば更に驚くべきことである。他の民族は最初に資本が投資され、次いで移民が行はれるが、日本人はその逆の過程をとるのである。

オランダ人共同體の社會的構成に起つた變化は、左程明瞭ではないが可成り重要である。一九〇〇年、民間の有力者は地方の大會社の支配人であつた。即ち、善良な信頼し得べき中産階級であるが、然し前世代の貴族的農業經營者とは社會的地位を異にし、且つ當時まださほど高い教育を受けてゐなかつた文官よりも文化の低いものであつた。しかるに一九三〇年には大會社の社長達はヨーロッパの財政政策と密接な交渉をもつ豪商 (merchant princes) であつて、彼等は官吏の中では總督のみが比肩し得る程度の待遇に與ることが出来た。同様な發展は社會階級の他の部面に於いても行はれ、一九三〇年に民間人は熟練労働者、筋肉労働者又は店員であつた。一九三〇年にヨーロッパ人共同體は土民生活から離脱したが、それは完全な獨立ではなかつた。一九三〇年より自己自身の社會に住み、文化施設や労働組合、労働政策等々を有するに至り、土民の生活とは全然分離した。

。 經濟 機能

民族的社會的機能の變化は自然にその共同體の經濟的機構に反映した。その一つの顯著な特徴は、外來資本が主としてこの國の自然資源特に石油とゴムの開發に投資されるに反し、オランダ人の資本は政廳や都市の債券、鐵道や電車事業に投資されることである。換言すれば、オランダ資本の大部分は國家永遠の福祉に投資されるに反し、外來資本の關心は主としてこの國から何かを獲得することに限定されてゐる。他の注目に値する特徴は、日本人資本が比較的少額であるにも拘らず、その顯著な經濟的發展である。一九三〇年には日本人は三つの銀行を創設し、製糖業の基礎を確立し、海洋漁業に覇權をにぎり、キナの土民栽培を支配し、綿織物の全輸入を確保し、且つ實質的に日本との海外貿易を獨占せんとした。しかし日本の最も目覚ましき活動は小賣商業 (Retail Trade) であつた。小賣商業は概して支那人店員を雇ふ支那人に任かされてゐた。故に商業學校の増加にも拘はらず、土民は事實上小賣商業の分野から除外され、従つて土民が卸賣の性質をもつ商業活動に發展する機會は殆んどなかつた。土民に商賣の機會を與へる問題は解決困難なるかに見えたが、日本人はそれを解決したのである。一九三〇年には一八九九人の「外國人」の取扱ふ小賣商業の中の、六〇パーセント以上は日本人の手により營まれた。これ等の日本人の大部分は恐らく店員として土民の青年を雇ふ雜貨廉賣店の支配人であらう。そしてこれ等の店舗が、東洋の習慣に従はずに正價を添附してゐることは、頗る強調に値することである。ヨーロッパ人と土民とを排斥した結果、當然に發生した支那人による小賣商の獨占は、三百年のオランダ統治の間に漸次發展成立して來たが、一九〇〇年以來民族主義的意識の成長に従つて、獨占の傾向は土民の外部の社會との接觸による啓發を妨害するものとして、次第に衰退して來た。たとひ日本人が慎重に東印度社會の經濟的構造を覆へすことを目的としたとしても、彼等日本人はそれ以上の弱點を見出すことができなかった。

經濟構造の變化は、オランダ人が官吏であると否とを問はず以前よりも更に土民と接觸をしなくなつた結果、オランダ人の共同體の中にも現はれてゐるのを觀取することが出来る。一九〇〇年に於ける典型的非官吏は内地に住み、村の勞働者を使つて村の農地を耕作する砂糖栽培業者であつた。「陸地栽培」と呼ぶ新しい穀物の農園栽培業者は地方の勞働者を雇用したが、それ等の穀物は、村の農地ではなくして荒廢地に栽培された。ジャワ煙草は前貸によつて手中の物とされた自由勞働者によつて栽培される。ゴムは土民の耕作者の手から市場に運ばれる。スマトラのデリー煙草の栽培には土地を除くすべてのものが輸入によつて行はれる。また鑛産物、特に石油の生産には、自己の分け前たる租税以上には何等社會生活に貢獻しない外國人の圍繞地 (enclaves) のみがその特有の社會的秩序の下に於いてそれを行ふのである。かくの如く物質的生產に於けるヨーロッパ人の介在は規則正しい順序を示してゐる。今世紀に隆盛となつた事業はヨーロッパ人が土民に殆んど接觸を有しない様な分野に於いてであつた。行政機關及び地方機關、鐵道、電鐵業、郵便電信業等々の古くからの事業には、依然としてその仕事が大體内地にある地方生れの者に依つて占められる割合が非常に大きい。然るに近年異常な發達をなした商館 (Mercantile office) にあつては、使用人の大部分は蘭印の街で生活を送つて來たヨーロッパ人である。オランダ人中のかゝる非官吏生活 (non-official life) の重心の移動は最近の國勢調査の統計表によく明らかに現はれてゐる。

これらの表は明らかに次のことを示してゐる。即ち東印度生れの住民は政廳業務、砂糖栽培、其の他の職業に於いて優勢であり、内地に住み住民を相手にしてゐるが、住民を少ししか知らない外國生れの者は、街か、または住民と殆んど接觸しない職業に勢力を占めてゐる。官吏間に於いても同様に専門家的仕事 (specialist service) に一大發展をなした。この職業にあつては一人の仕事に關する知識はその共同體の知識よりも重要なのである。

今世紀の初期に於けるファン・デーフェンテル及びその他の人の植民地社會の統一に對する啓蒙的評論はかゝる要素を表現してゐる。物資々源の開發に主として投資された國際資本は、オランダ資本が公共基金 (public funds)、交通事業、歴史ある砂糖工場等に投資されるに比し、それは土民の啓蒙に對して殆んど無感覺であり、永遠の福祉にも無關心である。市街地に集中せる、ヨーロッパ人の數ヶ國語を話す群集は、一九〇〇年のオランダ人よりも更に土民からかけ離れたものであつた。かつ新しい植民地は一層ヨーロッパ的生活を營み、過去の世紀の住民よりも遙かに多くヨーロッパ文化を取り入れてゐる。かゝるグループと土民との間の深淵は、社會的にも經濟的にも更に擴大されて來た。<sup>80)</sup>ヨーロッパ人に關する限り時間の經過が強調され、社會秩序の複合的性格は減少しないのである。我々はこれが支那人に關しても同様に眞實であることが分るであらう。

### 十一、支那人共同體<sup>81)</sup>

重要業務に於けるヨーロッパ人従事者  
(蘭印生れ(a)及外地生れ(b)の者を示す)

	(a)	(b)		(a)	(b)
行政機關	5611	2608	新作物	2483	4721
地方機關	1399	621	石炭、錫等	541	718
鐵道電軍	4221	825	石油	953	2204
郵便電信	1930	540	卸賣	1762	2665
砂糖=ステート	3192	1636	小賣商	441	1432



支那人人口の増加(1930年國勢調査第七卷46頁)

年	(a) ジャワ及びマヅラ			(b) 蘭領東印度			年増加率	
	男	女	合計	男	女	合計	(a)	(b)
1860			149,424			221,438	—	—
1880	110,002	96,929	206,931	212,213	131,580	343,793	1,6	2,2
1890	132,375	109,736	242,111	308,693	152,396	461,089	1,6	3,0
1900	149,774	127,491	277,265	347,004	190,312	537,316	1,4	1,5
1905	157,870	137,323	295,193	369,130	194,319	563,449	1,3	1,0
1920	209,103	174,511	282,614	517,747	291,292	809,039	1,8	2,4
1930	319,931	262,500	582,431	748,997	484,217	1,233,214	4,3	4,3

ヨーロッパ人と同様支那人の数は近年急速に増大した。この共同体に於いても亦社會機構と經濟機能は變形された。その数の増大は上表に見られる。

土民10,000人に對する支那人人口

年	ジャワ	外 領
1905	99	365
1920	111	307
1930	145	356

支那人々口の土民人口に對する増加は、ここに掲げられてゐるが、外領の土民の数が一九〇五年にはそれに相應するヨーロッパ人の表に比して、過小に計算されてゐることに注意しなければならぬ。

b 社會組織

支那人としてこの表に統合された人々は、ヨーロッパ人の場合よりも、一層同種ではないのである。即ちヨーロッパ人の中にも、オランダ人、イギリス人、ドイツ人、アメリカ人、フランス人、日本人等があるのと同様に、支那人の中にも、支那の各地方から來てしばしば通譯なくしては會話すら出來ない福建人(Hok-

Kien)、客家(Hok-Koi)、漳州人(Tio-Chu) 番禺人(Kwong-Fu)等がある。彼等は少くともこの重要な事實に於いて、ヨーロッパ人よりも同種でない。即ち事實ヨーロッパ人は凡て資本家的生産に關心を持つのに反して、福建人と客家とは主として商人に、番禺人(廣東人)は職工、漳州人は農夫に關心を持つのである。支那人の共同体は(Bijvers)と(Grokers)即ち永住者と一時的移住者との二階級を包含してゐる點で、非常に良くヨーロッパ人共同体に似てゐる。一時的移住者の一大階級は鑛業、農園栽培等に働く苦力である。これらの人口は、歸國することが移民を許される一つの條件なので、めつたに定住しないのである。しかるに「支那人」の職業につく一時的移民は繁榮し且つまた東印度に定着するのである。

この人種、職業の複雑性が支那社會を今世紀の初頭に今日の如く性格づけたのである。而して支那人共同体に於いてもヨーロッパ人共同体に於いて行はれたと同様な社會構成の變化が行はれた。社會構造に起きた斯うした變化の重なる原因は、産業の機械化とジャワ人苦力の代用による支那人苦力の減少にある。しかるに最近の統計の報告によれば、支那人の職業に従事する移民の数は増加したかも知れない。

しかしながら共同体内部に於ける變化よりも、全體としての共同体に影響を及ぼす變化が重要なのである。一九三〇年には支那人は富裕にして且つ有力であつたが、その地位に於いては劣つてゐた。彼等の居住は支那人街に限られ、西歐語に不案内であるのみならず、往々にして自國語にすら文盲なのであつた。彼等の經濟機能に接觸すれば分る様に、彼等の富を得る爲の諸活動は建設的といふよりは寧ろ寄生的であつた。彼等が土民に有害な影響を與へたと考へられることは疑ひのないところである。また支那人による土民の搾取に對してヨーロッパ人の持つ義憤は、利潤がヨーロッパ人から支那人の中産階級の手に移り行くことに因るものと主張するのは、

皮肉家ぐらゐのものである。現在の支那人の地位は非常に異なる。我々は支那人街からの支那人の解放、通行許可制 (Pass system) の漸進的廢止、オランダ人・支那人 (共學の) 學校の承認、彼等の法律上の身分の改善等々に注意をして來た。斯うした變化によつて支那人は成功に向ふ新しい機會を掴んだのであつた。支那人は土民のみならず、大概のヨーロッパ人に比しても常に富裕であつた。富の蓄積に當つては支那人共同體とヨーロッパ人共同體との間では顯著な差異がある。即ち支那人は殆んど定住者となる結果、彼等の財産は一時代から次の時代へと代々傳へられ、支那人の一番の富豪はヨーロッパ人のそれよりも更に富んでゐる。然しながら、かゝる事情はラツフルス及びそれ以前の時代のことであつて、實際斯うした相違は以前よりも遙かに著しくなくなつてきた。と言ふのは使用人が一代毎に東洋からヨーロッパへ歸國したけれども、ヨーロッパ人商館は永久的に設置される様になつて來たからである。しかし今世紀の新しい特徴は、資産の運用方法に存する。現在彼等は資本家的生産と密接に關係してゐるが、このことは彼等を一層ヨーロッパ社會と密接に聯合せしめた。教育施設の改善及び支那人の法律上の身分の變化と相まつて、ヨーロッパ人共同體と支那人共同體のかゝる新しい結合により、その人口の増加の割合以上に支那人共同體の權力を増大せしめたのであつた。

而して新しき支那人共同體は、あたかもヨーロッパ人共同體が現在更にヨーロッパ人的である如く、一層支那人的である。政府の勸奨と交通機關の發展とにより支那人とその祖國との結合が強化された。一九〇〇年代の支那人は如何なる教育も受けてゐなかつたにしても、習慣的にオランダ人又は土民の學校に通學してゐた。しかるに現在では根強い支那文化の傳統をもち、支那人を校長に持つ支那人の學校に學び、シンガポール及び支那本國に於ける仲間と接觸せしめる支那人の定期刊行物を購讀してゐる。ヨーロッパ人の場合と同様に支那人について

も、社會の複合的性格は一九〇〇年よりも更に著しいのである。

支那人の地位の改善は、元來支那人の攻勢に對する番犬として任命され、寧ろ支那人の保護者として働く様になつた支那人問題顧問 (Adviser on Chinese Affairs) に一部分は依存するのである。然し更に多くは支那人の各種の團結力及び彼等が利益擁護の爲めに聯合する天賦の才能に歸因する。彼等は共同行動によつてオランダ人・支那人學校の特權及び政廳のその他の特許を受ける要求を主張した。而してかゝる團結の能力は經濟の分野に於いても顯著であつた。即ち外領の或る地方の支那人が地方支那人學校の支援に依り税を賦課し、專斷的附加税に反對するヨーロッパ人商館をポイコットする場合の如きがそれである。しかし乍らこのことはすべての障害に打克つ支那人の敏捷な經營才能がなかつたならば支那人問題顧問 (adviser of chinese affairs) による援助も、支那人勢力の結合力も到底達し能はざるところであつたらう。

### 。 經濟 機能

「支那人はヨーロッパ人及び土人が出來ないか或ひはまた如何なる理由にせよ爲し得ないことでも何でも自己一身に引受けるのだ」とよく言はれる。然し次の様に言へば、それは一層正確であらう。即ちヨーロッパ人及び土民は支那人の出來ないことを手をつけずに殘してゐる。と言ふのは若し支那人が出來ることならば投機的利潤が得られる限りそれを行ふであらうから。バラック建物に同輩と群居して生活する支那人は、一日に一握りの米とタバコがあればよく強健で且つ元氣を維持し、一週間一セントしかかゝらない魚のスープで十分榮養をとつてゐるのである。支那人は商品を信用で賣買し、利潤を貸出す。故にいくばくも無く數千金を二年一割二分の利

子で貸し、地方土民官吏を顧客にもつた小資本家になるであらう。

最近の國勢調査は支那人の活動の有益な概要を示してゐる。支那人の主要職業は、最近の統計表に現はれた有職支那人中の三分の一(三十六・六パーセント)を占める商業である。しかしながら五分の一近くは工業主として小手工業に従事してゐる。そしてその残りは園藝、農業及び農園や鑛山の苦力労働等々の廣い分野に亘つてゐる。商業に従事する比率の大なることは、彼等の生産品及び必需品に對する世界市場をもつた内地の小生産者と消費者とを連繫するに當つて支那人の重要性を指示してゐる。しかし彼等は從來職人として著名であり、大工、靴工、裁縫師、パン屋及び掃除人として知られてゐる。近年ヨーロッパ人の商業並びに銀行業の大發展に従つて、彼等はヨーロッパ人商館の書記、ヨーロッパ人商店の従業員の職業を得た。また最近に至つては、教師、齒科醫、醫師等の職業に於いて一層有名になつて來た。鑛山開發に當つても、彼等は次第に一層の科學的方法を採用してゐるが、新聞雜誌に於いては彼等は非常に強固な地位を得て、土民新聞の統制に大なる分野を獲得した。上記の數字が指摘してゐる如く、彼等支那人はジャワよりも外領に於いて更に有力であるのである。これらの島の或る土地に於いては、漁業に従事する特殊の集團があり、他の地方では農業に落着いて従事し、ポルネオの一部では支那人が非常に多いので實際の仲介者の如くであり、また或る小島は實際支那人の移住地の如き觀がある。

かゝる若干の活動は新しいものであり、その他は長い間繼續してゐる。すべての、否な殆んどすべての活動に於いて、支那人は今世紀間にトップを切つて來たが、顯著な發展の特徴を示したのは、寄生の時代から建設の時代にかけてであつた。一九〇〇年支那人は阿片喫煙所、質店、高利貸等によつて巨富を占めた。阿片販賣人として彼等は有害な藥の取扱ひを獨占し、阿片喫煙の習慣を傳播せしめる地位——その地位によつて全利益を獲得した

のであつたが——にあつた。質屋として彼等は擔保に出された質物の價値よりも、借手の必要に應じて金を貸す様に條件を限定した。且つ質屋は往々不正な阿片喫煙所であつた。金貸業者として彼等は土民官吏を自己の支配下に置かんと企て、その権力を利用して土民耕作者を壓迫せんとした。表高上の職業が商人である人々ですら、彼等の利益の多くは金貸によつて得られるのである。臘繪作業(Batik)に要る衣類の輸入業者は職人を奴隷の如き状態に置いた。凡ての支那人の活動によつて、外來者ではあるが古く創設された社會の一員としての支那人の地位は、主として自治的であり、祕密結社によつて密接に結び付けられた支那人は、土民が彼等に擄取されぬ様に保護せんとする條令を無視することが出來た。主として彼等の勢力を抑制せんとする目的で、政廳の手に阿片を取上げ、質屋業を政廳の獨占とし、國營金融を發展せしめようとした。この政策の結果は豫期せざるものがあつた。何故なればかゝる三方面への政廳の干渉は、多額の支那資本が他の有利な手段を求めて自由に放出されたからであつた。彼等は既に砂糖、木材を取扱ふ商人として比較的小規模乍ら斯業に關與してゐるが、現在ではさらに大規模の事業に發展し始めた。そして彼等が個人の大領有地(Pachtgere Landreijen)を購買するので若干の憂慮の種となつてゐる。しかし乍ら一九一五年に於いても依然として彼等は資本を砂糖、木材及び土地へ投資してゐたと言ふことが出来る。しかし乍ら彼等は第一次世界大戰以後殊に最近に至つて新領域を求めだした。即ち彼等は有力な銀行事業を建設し、地方産業の發展を指導した。經濟生活に對する彼等の貢獻は最早單に寄生的ではなくして建設的である。

それにも拘はらず彼等は依然として激烈なる經濟戦線に於いてヨーロッパ人並びに土民層と競争し乍ら、階層的に孤立せる共同體を形成してゐるのである。既に我々が觀て來た如く支那人社會は人種的にも職業的にも非常

に多種多様である。しかしかくも多様であるにも拘はらず、全體として支那人を大觀する場合、或る限度まで互に共通の利害をもち、種々の方面で他の階層の利害と對立せる複合共同體に於ける一階層を形成してゐるのである。仲買人としてヨーロッパ人、土民兩者に彼等が貢獻することは事實であるが、同時に彼等はヨーロッパ人及び土民と競争し、且つ有利な條件にあつたのである。或る場所では彼等は、支那人學校の利益の爲めにヨーロッパ人商會に課税を行ふ程有力であつたことに我々は十分注意して來た。即ち彼等支那人は、ヨーロッパ人には利潤が少な過ぎる様な商品を取扱ふことも、また更に危険な冒險をも企て得るのである。(何故ならば破産の處罰はヨーロッパ人よりも支那人の方が軽いから)かくして經濟的競争の刃を鋭くし、商業道德の標準を低下する傾向があつた。なほまた日本人輸入業者に對するヨーロッパ人の聯合を破壊したのも支那人であつた。然し乍らヨーロッパ人はその商業的、科學的、産業的技術の優秀な設備により、支那人競争者に對してもよく自己の持場を保持し得たのであつた。のみならずヨーロッパ人が彼等の偉大なる組織力により逐年自分等の事業を強化擴大して行つたにも拘らず、支那人事業は通常創立者の死亡と同時に倒壊するのが例であつた。支那人は充實せる經驗と優れた教養を有し、これらの諸特質を獲得したのであり、且つそのためにヨーロッパ人もこれまでその地歩を築くことを得たのであるが、日本人問題は更らに緊急を要するので、十九世紀及び最近に至るまで最も注意されて來た支那人問題は最早激論の對象とされなくなつた。しかし一方において、土民の發展に對して支那人は鞏固な障害を形成してゐる。土民は支那人商店或ひはその他の事業に働くことが出來ず、且つ又産業活動に發展せんとする土民の企圖も支那人の競争により抑壓されるのである。パンヤ工業を最初開始したのは土民であつたが、數年の後それは支那人のために奪はれた。また土民が土民の煙草製造に於いて新事業を建設せんとした時にも、長い

闘争の後に彼等の方法を模倣した支那人競争者に始めて打克つて自己の立場を土民は確立できたのであつた。經濟分野に於いて支那人はヨーロッパ人社會を蠶食しつゝあつた。しかのみならず彼等は、土民の覺醒に對して怖るべき障害をなしつゝあつた。しかし乍ら各階層間の文化的接觸は以前程密接ではない。民族主義的感情はその深淵を深めた。そして經濟的利害の衝突により彼等が屬してゐる複合社會に一層大なる緊張を與へた。さらに最も有力なものには遙かに及ばないが、支那人は外來東洋人中の唯一の階級ではないことを忘れてはならない。且つ最近の國勢調査に依れば「支那の場合と全く同様、近き將來アラビヤ人々口の可成りの増加が豫想される」ことは注目される事柄であらう。今日では、單に外來東洋人社會に於いて富と人口とが増加したのみならず、支那人共同體内に於いてすら複合社會が一層強調される傾向にある。

## 十二、文化的進歩

### a ヨーロッパ人

富力及び人口に於けるヨーロッパ人要素の發展及び領土全體に廣く分布してゐるにも拘らず、彼等が衝に聚合せる事實が、文化方面に於いて更に新しい發展に導くものであることは何等不思議ではないのである。上述の如く一九〇〇年にはヨーロッパ人階層は土民の生活から分離し、現在では自己自身の社會を有してゐるのである。<sup>31)</sup>・シユリー・ペーン (Chailly Peart) は、シヤツのオランダ人は文化的に死滅してゐると述べてゐる。即ちオランダ人は精神的向上の爲めではなくて、單に暇つぶしの爲めに讀書するのだと見てゐる。彼等が依然として非常な

昭和十七年一月二十八日印刷  
昭和十七年二月一日發行

フアニーニツアル

蘭印經濟史

◎ 定價 五圓四拾錢

著作權者

川 又 昇

發行者

東京市京橋區銀座西一ノ三  
増 田 義 彦

印刷者

東京市淀橋區隠船町八二  
石 井 完 一

印刷所

東京市淀橋區隠船町八二  
帝都第一印刷社

配給元

日本出版配給株式會社



發行所

東京市京橋區銀座西一ノ三  
實業之日本社

電話京橋(66)五二二一五  
掛替東京三二二一六

落子・風子・不完全な品が御座いましたら御申出下さい御返替へします

(木製原小)